

京都美術工芸大学 大学院

シラバス [2025 年度版]

京都美術工芸大学大学院
建築学研究科 建築学専攻

学部・研究科のディプロマ・ポリシー番号表

美術工芸科目

インテリアデザイン特論	…	1
工芸とデザイン	…	3
美術工芸特論	…	4
都市環境と芸術	…	5

専門特論科目

伝統建築特論Ⅰ	…	7
伝統建築特論Ⅱ	…	8
建築計画特論Ⅰ	…	10
建築計画特論Ⅱ	…	11
建築設計特論Ⅰ	…	12
建築設計特論Ⅱ	…	14

専門研究科目

建築デザイン特別演習Ⅰ	…	15
建築デザイン特別演習Ⅱ	…	17
建築企画論	…	19
西洋都市建築デザイン論	…	21
建築学特別研究Ⅰ	…	22
建築学特別研究Ⅱ	…	24

学部・研究科のディプロマ・ポリシー番号表

京都美術工芸大学

区分	DP番号	ディプロマ・ポリシーの項目
学部共通		京都美術工芸大学は、本学の教育目標を達成するために以下の素養を身につけるように編成された教育課程を履修し、所定の単位を修得した学生に対して卒業を認定し、学士の学位を授与する。
	DP0-1	1) 建築や芸術に関する幅広い知識、技能
	DP0-2	2) 社会の発展に貢献するための課題解決力、伝統から革新を生み出す構想力
	DP0-3	3) 多様な人々と協働するための協調性、コミュニケーション力
芸術学部		芸術学部デザイン・工芸学科では、京都美術工芸大学ディプロマ・ポリシーに基づき、以下の素養を身につけた学生に対して卒業を認定する。
	DP1-1	1) 芸術分野に関する幅広い知識、技能。
	DP1-2	2) 芸術分野を通して社会の発展に貢献するための課題解決力、伝統から革新を生み出す独創的な構想力、発想力。
	DP1-3	3) 日本の歴史文化を修得理解するとともに、グローバルな視点も視野に入れた新しい文化づくりへ発展させる感性・価値観。
	DP1-4	4) 芸術分野を通して多様な人々と協働するための協調性、コミュニケーション力、表現力。
建築学部		建築学部建築学科では、京都美術工芸大学ディプロマ・ポリシーに基づき、以下の素養を身につけた学生に対して卒業を認定する。
	DP2-1	1) デザイン領域だけでなく施工や歴史文化、あるいは建築関連法規など建築に関する幅広い知識、技能。
	DP2-2	2) 建築行為を通じて社会の発展に貢献するための課題解決力、伝統の継承およびそれらを基にした新しい文化や作品作りにつながる独創的な構想力、発想力。
	DP2-3	3) 日本の歴史文化を修得理解するとともに、グローバルな視点も視野に入れた新しい文化づくりへ発展させる感性・価値観。
	DP2-4	4) 建築は単体の作品ではなく文化そのものであり、また多くの人々の協力の中から作品が生まれるという観点から、多様な人々と協働するための協調性、コミュニケーション力、表現力。
大学院建築学研究科		建築学研究科は、以下の素養を身につけた学生に対して修士の学位を授与する。
	DPM-1	1) 建築デザインに加え、施工や歴史文化、あるいは建築関連法規など建築に関する高度で幅広い知識、技能。
	DPM-2	2) 建築行為を通じて社会の発展に貢献するための実現可能性の高い課題解決力、伝統の継承およびそれらを基にした新しい文化や作品作りにつながる高度で独創的な構想力、発想力。
	DPM-3	3) 日本の歴史文化を修得理解するとともに、グローバルな視点も視野に入れた新しい文化づくりへ発展させる鋭い感性・安定した価値観。
	DPM-4	4) 建築は単体の作品ではなく文化そのものであり、また多くの人々の協力の中から作品が生まれるという観点から、多様な人々と協働するための協調性、コミュニケーション力、表現力。

(備考)この表は、カリキュラム・ポリシー(CP)により編成されている授業科目とディプロマ・ポリシー(DP)の一貫性を示すため、シラバスの「到達目標」欄に「DP番号」で示すためのものです。

講義名	インテリアデザイン特論		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	芸術科目		
科目分野名			
配当年次	修士課程1年次		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 新海 俊一	KYOB I 建築学部

到達目標	到達目標 1) 家具の種類と機能を理解できるようになる。 2) 実務におけるイスのデザインと製造技術について理解できるようになる。 3) イスのデザインにおける人間工学的アプローチについて理解できるようになる。 4) 世界の名作家具についての知識を活用できるようになる。 この科目はDPM-1に該当する。
授業概要	授業概要 居住空間の主要なインテリア・エレメントである家具は、人間の身体を支えて活動を支援する、空間を仕切る、演出するなどの機能を持つ。 本科目では、インテリアエレメントの中でも、人の身体に直接触れて使用する椅子を中心に、家具の歴史的な変遷、社会制度と関わる家具の文化的な意味、家具の種類と性能、家具の企画・エスキス・設計・製作に至るデザインプロセス、家具の製作材料と工作技術、CAD、CG、3Dプリンタなどのデジタルファブリケーションツールを用いた最新の家具デザインと制作などについて学ぶ。
授業計画 授業内容	講義は下記のスケジュールで進める。 - 第 1 回 インテリアエレメント、家具とは？ - 第 2 回 家具の分類 - 第 3 回 家具の用途 - 第 4 回 家具の形態 - 第 5 回 家具の構造 1（フレームとクッション） - 第 6 回 家具の構造 2（張地と天板） - 第 7 回 家具の素材 - 第 8 回 住環境と家具の歴史 1（古代～近世） - 第 9 回 住環境と家具の歴史 2（近代～現代） - 第 10 回 家具のデザインイメージ - 第 11 回 家具のデザインプロセス - 第 12 回 家具の設計・製作 - 第 13 回 人間工学と家具 - 第 14 回 イスと机の人間工学 - 第 15 回 ディスカッション ただし、講義の進捗により、スケジュールを変更することがある。
成績評価	受講姿勢（40%）、学期末レポートの内容（60%）を総合して評価する。
教科書	適宜資料を配布する。
参考書 参考資料	1) アガタ・トロマノフ 著、中村雅子 訳：「名建築と名作椅子の教科書」株式会社エクスナレッジ、2019 2) 小宮容一 著「図解インテリア構成材 ー選び方・使い方ー（改訂2版）」オーム社、2002
履修上の注意	授業で紹介できる作品の数は限られている。各自で積極的に各種書籍による文献研究や、家具店や工房の訪問などによる調査を行い、多くの家具との出会いを通じて、「生活を支える道具」としての家具のあり方を考究する。
予習・復習指導	1回（1コマ）の講義について、4時間の予習・復習をする。予習復習時間には、家具作品および作家に関する文献研究の他、家具店などでの作品調査などに要する時間も含む。

関連科目	建築デザイン特別演習Ⅰ・Ⅱ
課題に対するフィードバックの方法	提出された期末レポート課題の内容をもとに、ディスカッションを行う。
教員の実務経験	インテリアデザイン、家具デザイン、照明デザインなどに関する実務経験を有する教員が指導する。
教員の実務経験有無	有
科目ナンバリング	MAT-AR501L

講義名	工芸とデザイン		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	芸術科目		
科目分野名			
配当年次	修士課程1年次		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 岡 達也	KYOB I 芸術学部

到達目標	近代日本における工芸とデザインの動向を学び、現代に続くものとして考え、研究・制作に活用できるようになること。 この科目は、DPM-2に該当する。
授業概要	本講義は、おもに近代における日本国内のデザインに関する動向を対象とする。こんにちの日本におけるデザインを把握するうえで必要となる、近代になって成立した「デザイン」とそれに関連する「美術」「工芸」などの概念の成立と展開について解説する。また、明治以降に開催された国内外のおもな博覧会および展覧会、美術・図案・デザインに関する団体、教育機関、作品や作家・デザイナーなどの具体的な事例を紹介する。それらを踏まえ、相互関係を整理し、現代まで続く美術、工芸とデザインについて理解する。
授業計画 授業内容	第1回 ガイダンス 第2回 美術・工芸概念の成立① 第3回 美術・工芸概念の成立② 第4回 美術・工芸概念の成立③ 第5回 万博と海外のデザイン 第6回 「美術」「工芸」と教育 ① 第7回 「美術」「工芸」と教育 ② 第8回 「美術」「工芸」と教育 ③ 第9回 図案家と図案団体 第10回 図案集というメディア 第11回 官展と工芸 第12回 都市化と工芸・デザイン 第13回 商業美術と戦前のグラフィックデザイン 第14回 デザイン以降の工芸 第15回 総括
成績評価	授業態度、期末レポートによって総合的に評価する。
教科書	特に使用しない。
参考書 参考資料	・竹原あき子／森山明子 監修『カラー版 日本デザイン史』美術出版社、2003年 ・森仁史『シリーズ近代美術のゆくえ 日本〈工芸〉の近代 シリーズ近代美術のゆくえ』吉川弘文館、2009年 ・並木誠士 編集『京都近代美術工芸のネットワーク』思文閣出版、2017年
履修上の注意	参考文献等で展覧会、作品、作家などの相互関係を理解しておくこと。
予習・復習指導	・1コマに対して、2時間の事前学習及び2時間の復習をすること。 ・講義内で配布する資料を読み、各回のトピックについて理解すること。前後の流れを把握しておくこと。
関連科目	美術工芸特論
課題に対するフィードバックの方法	出席確認時の質問に対して次回以降、講義内もしくはクラスルームで回答する。
教員の実務経験	デザイン制作会社におけるデザイナーとしての経歴、京都工芸繊維大学美術工芸資料館の勤務経験（展覧会企画、収蔵資料研究などを担当）およびデザイン史研究の実績をもとに講義する。
教員の実務経験有無	有
科目ナンバリング	

講義名	美術工芸特論		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	芸術科目		
科目分野名			
配当年次	修士課程2年次		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 岡 達也	K Y O B I 芸術学部

到達目標	「美術工芸」とその周囲にある領域の基礎概念とその形成過程について理解を深める。 この科目は、DPM-3に該当する。
授業概要	日本の「工芸」を取り巻く状況は、これまで複雑に変化してきており、現在でも「工芸」「美術工芸」「工芸美術」「伝統工芸」など、さまざまな分類で呼称されている。本講義では、おもに日本の「近代」という時代を対象とし、明治以降に形成されてきた「美術」「工芸」などの領域、概念とその展開について、制度、教育、制作、鑑賞などの側面から解説する。それらの具体的な動向として、博覧会、展覧会、教育機関、美術・工芸・図案・デザイン団体に関する事例、制作者である作家・デザイナーなどを取り上げて相互の関連を把握し、これらを踏まえたうえで現代における美術、工芸の位置付けについて概観する。
授業計画 授業内容	第1回 ガイダンス 第2回 「美術」と「工芸」の概念形成① 第3回 「美術」と「工芸」の概念形成② 第4回 工芸と博覧会① 第5回 工芸と博覧会② 第6回 「美術」「工芸」と博物館① 第7回 「美術」「工芸」と博物館② 第8回 「美術」「工芸」と教育① 第9回 美術「工芸」と教育② 第10回 工芸と伝統① 第11回 工芸と伝統② 第12回 工芸と民芸 第13回 工芸と現代① 第14回 工芸と現代② 第15回 総括
成績評価	授業態度、期末レポートによって総合的に評価する。
教科書	特に使用しない。
参考書 参考資料	北澤憲昭『眼の神殿「美術」受容史ノート』1989年、美術出版社（2010年、ブリュッケ） 佐藤道信『明治国家と近代美術』1999年、吉川弘文堂
予習・復習指導	一講義（1コマ）に対して4.5時間の予習復習をすること。 予習：次回講義のテーマに関する配布文献資料を読み込んでおくこと。 復習：講義内容を整理しておくこと。
関連科目	工芸とデザイン
課題に対するフィードバックの方法	講義内でおこなう。
教員の実務経験	京都工芸繊維大学美術工芸資料館の勤務経験（展覧会企画、収蔵資料研究などを担当）およびデザイン史研究の実績をもとに講義する。
教員の实務経験有無	
科目ナンバリング	

講義名	都市環境と芸術		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	美術工芸科目		
科目分野名			
配当年次	修士課程2年次		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 新海 俊一	K Y O B I 建築学部

到達目標	1) 都市生活と都市環境の関係を理解する。 2) 都市デザインの意義、役割を理解する。 3) 都市デザインの手法を理解する。 この科目はDPM-1に該当する。
授業概要	我々が生活する都市は、ハードウェア面だけでなくソフトウェア面も含め、様々な要素によって構成されている。都市がいかんして今日の姿を形成するに至ったのかを読み解くことは、よりよい都市環境を実現する方法を探る上で不可欠である。 本講義では、都市デザインがなぜ生まれたのか、その歴史の変遷や展開、現代における都市デザインの役割などについて学び、都市をいかにデザインするか、その手法を提案するための基礎的な知識を身につけることをめざす。 講義では、事例を通じて都市デザインの目的、メカニズム、担い手、具体的デザイン手法を解説する。
授業計画 授業内容	講義は下記のスケジュールで進める。 第1回 オリエンテーション 第2回 日本の都市計画と行政システム 第3回 都市デザインとはー1都市デザインの定義 第4回 都市デザインとはー2都市デザインの歴史 第5回 都市デザイン手法-1都市を読む 第6回 都市デザイン手法-2空間情報 第7回 都市デザイン手法-3空間の構想 第8回 都市デザイン手法-4街並みの設計 第9回 都市デザイン手法-5ウォーターフロントの設計 第10回 都市デザイン手法-6都市デザインの制度とマネジメント 第11回 都市デザイン手法-7市民参加のまちづくり 第12回 都市デザインの実践-1都市のストック活用 第13回 都市デザインの実践-2都市の交通空間 第14回 都市デザインの実践-3都市の再生 第15回 総括 ただし、授業の進捗によりスケジュールを変更することがある。
成績評価	受講姿勢（40%）と学期末レポートの内容（60%）を総合して評価する。
教科書	【指定教科書】（履修者は必ず購入すること） 前田英寿 他著：「アーバンデザイン講座」，彰国社，2018
参考書 参考資料	1) 土屋和男 著：「都市デザインの系譜」，鹿島出版会，1996 2) 馬場璋造 著：「日本の建築スクール」，王国社，2002
履修上の注意	講義で紹介できる事例は限られている。講義の中で紹介した事例や参考文献をもとに、各自で積極的に関連事例に関する文献研究や現地調査を行い、現代の都市環境や都市デザインについて考究する。また、建築家による建築論・都市論についても分担して調査・報告を行う。
予習・復習指導	1回（1コマ）の講義について、4時間の予習・復習をする。 予習・復習時間には、都市デザインの取り組み事例に関する文献研究の他、現地調査などに要する時間も含む。
関連科目	建築デザイン特別演習Ⅰ・Ⅱ

課題に対するフィードバックの方法	建築家による建築論・都市論について調査・発表する。また、提出された期末レポート課題の内容に関して口頭発表、ディスカッションを行う。
教員の実務経験	都市計画行政および建築設計、環境保全計画、環境デザイン、まちづくり等に関する実務経験を有する教員が指導する。
教員の実務経験有無	有
科目ナンバリング	MAT-AR604L

講義名	伝統建築特論Ⅰ		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	専門特論科目		
科目分野名			
配当年次	修士課程1年次		
必修選択区分	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
特任教授	◎ 大上 直樹	KYOB I 建築学部
講師	中西 大輔	KYOB I 建築学部

到達目標	我が国の各時代の伝統建築の特徴の要点について、実例を通して、それらを成立させた文化的、社会的及び技術的背景を把握することで、伝統建築の普遍性と変化の原理を理解するとともに、我が国の伝統文化財の本質を読み解く能力を養う。 この科目は、DPM-1、DPM-3に該当する。
授業概要	建築設計の必要とされる素養のひとつである歴史的建造物とりわけ日本の社寺建築の様式を中心に、取り上げ、古代から近代にかけての代表的な様式の変遷やその代表的遺構の紹介とその特徴を述べ、さらには工法、素材、意匠的特徴などに関する知識を習得するのを基本とする。建築史も歴史学の一環であるため、政治、経済、社会、文化などあらゆる分野と関連して考える必要があり、建築を様々な面（思想、価値観、社会制度、工法、材料、施工等）から捉えて、伝統建築における高度な理論の構築を目指す。
授業計画 授業内容	全15回 第1回 講義概要・履修指導 伝統建築の基礎① 時代区分 建築種別 構造 度量衡 第2回 伝統建築の基礎② 古図面と歴史資料 第3回 伝統建築の材料と構法① 木材と木工事 第4回 伝統建築の材料と構法② 瓦 檜皮・柿 茅 第5回 伝統建築の歴史① 古代 寺院建築 第6回 伝統建築の歴史② 中世 1 寺院建築 第7回 伝統建築の歴史③ 中世 2 神社建築 第8回 伝統建築の歴史④ 近世 寺院と神社建 第9回 伝統建築の技術① 木割術 第10回 伝統建築の技術② 規矩術 第11回 伝統建築の設計技法① 平面図の決定法とその他の建物の相互関係 第12回 伝統建築の設計技法② 断面の決定法 第13回 伝統建築の文化財指定と調査 文化財指定と文化財行政 第14回 伝統建築の保存修理 文化財建造物の保存修理事業の歴史と課題 第15回 まとめと講評 総括と今後に向けての課題
成績評価	レポート（30点）、定期試験（70点）の合計で評価する。 60点以上を合格とする。
教科書	適宜資料を配布する。
参考書 参考資料	文化財講座 日本の建築 1～5（第一法規） 文化財建造物修理工事報告書 日本建築史図録
履修上の注意	日頃から、伝統文化全般に関心を持つことが望ましい。
予習・復習指導	1コマに対し4.5時間の事前学習をすること。
課題に対するフィードバックの方法	提出されたレポートや試験結果に対し個別にコメントを返す。
教員の実務経験	文化財修理の設計監理が40年以上の経験がある。
教員の実務経験有無	有
科目ナンバリング	MAT-SL501L

講義名	伝統建築特論Ⅱ		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	専門特論科目		
科目分野名			
配当年次	修士課程1年次		
必修選択区分	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 森重 幸子	KYOB I 建築学部
教授	高田 光雄	KYOB I 建築学部

到達目標	京都の歴史的市街地の特徴的な存在である京町家および細街路（路地）が現在おかれている社会的状況に関する知識を習得し、それらの保全・継承・再生のための実践的能力を養う。 この科目は、DPM-1、DPM-3に該当する。
授業概要	人口減少社会において、既成市街地のストックをベースとした建築・住まい・まちづくりが求められている。歴史都市においては現行の近代的な法律や社会制度と歴史的市街地の建築ストックとの間の矛盾がしばしば存在する。一方で、その都市ならではの歴史的な環境を保全継承することの重要性もますます高まっている。 本授業では、京都の歴史的市街地の特徴的な存在である京町家および細街路（路地）の保全・継承・再生の意義を概説するとともに、京町家などの伝統的建築が残る生活空間の現代的再編・再生を目的としたまちづくり（コミュニティデザイン）に関する知識の習得と高度な理論の構築を目指す。授業時間内にフィールドワークおよび発表を行う。
授業計画 授業内容	全15回 第1回 講義概要・履修指導 第2回 京町家と社会（1）：京町家と生活文化 第3回 京町家と社会（2）：町家に対する京都の政策の変遷 第4回 京町家と社会（3）：木造をめぐる法制度の変遷 第5回 京町家と社会（4）：個別事例にみる町家の継承の形 第6回 フィールドワーク 第7回 細街路概論 第8回 フィールドワーク 第9回 フィールドワーク 第10回 細街路の現状（1）：京都の細街路に関する調査結果 第11回 細街路の現状（2）：細街路をめぐる法制度の変遷 第12回 細街路の現状（3）：細街路における現代の生活 第13回 ワークショップ：路地まちづくりに関する調査 第14回 演習 第15回 まとめとディスカッション、講評
成績評価	受講態度（10点満点）、フィールドワークおよび演習の成果物（30点満点）、定期試験（レポート形式）（60点満点）を100点満点で評価し、その合計が60点以上を合格とする。
教科書	適宜資料を配布を配布する。
参考書 参考資料	京都市発行『京都市京町家保全・継承推進計画』 京都市発行『路地保全・再生デザインガイドブック』 西村幸夫『路地からのまちづくり』学芸出版社 鳴海邦碩『都市の自由空間―街路から広がるまちづくり』学芸出版社
履修上の注意	普段から市街地の状況に注意を払い、社会状況にも興味関心を持つこと。 フィールドワークや発表は特に欠席しないよう注意すること。
予習・復習指導	1コマに対し4.5時間の事前学習をすること。受講に当たっては、事前に通知・配布する関連資料やホームページ上の資料を学習しておくこと。具体的には、京都市ホームページ「京町家情報館」において公開されている「京町家の保全・再生」および「密集市街地対策」のサイト等が該当する。
関連科目	
課題に対するフィードバックの方法	授業時間内に発表を行い、発表内容に対する講評を行う。

教員の実務経験	町家の改修設計、路地長屋の再生プロジェクト等の実務経験あり。
教員の実務経験有無	有
科目ナンバリング	MAT-SL502L

講義名	建築計画特論 I		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	専門特論科目		
科目分野名			
配当年次	修士課程1年次		
必修選択区分	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 井上 晋一	KYOB I 建築学部

到達目標	建築家として必要な構造的・設備的知識を含めた計画的知識を習得する。 伝統建築と現代建築の共存・融合に関する知識を習得する。 この科目は、DPM-1、DPM-2に該当する。
授業概要	現代社会における多様なニーズに対応する建築計画における高度な知識と技術の修得を目的とする。 伝統建築と現代建築の共存・融合を考慮して、各種建築物における計画・構造・設備の総合的観点および実践的観点から、建築計画および設計の可能性を探る。講義で教授した内容を踏まえ各自が選定した事例を基に調査分析を行い、教員及び学生間で意見交換や助言を受けることで、高度な建築計画の能力を養う。
授業計画 授業内容	全15回 第1回 講義概要・履修指導 第2回 伝統建築と現代建築の共存・融合の可能性 第3回 住宅・居住空間 (1) 第4回 住宅・居住空間 (2) 第5回 教育施設 (1) 第6回 教育施設 (2) 第7回 文化施設 (1) 第8回 文化施設 (2) 第9回 医療・福祉施設 (1) 第10回 医療・福祉施設 (2) 第11回 観光・宿泊施設 (1) 第12回 観光・宿泊施設 (2) 第13回 建築のリノベーション (1) 第14回 建築のリノベーション (2) 第15回 まとめ
成績評価	授業態度（積極性）（30点満点）、レポート（70点満点）を100点満点で評価し、その合計が60点以上を合格とする。
教科書	適宜資料を配布する。
参考書 参考資料	『第3版コンパクト建築設計資料集成』（丸善）『現代建築学 建築計画2』（鹿島出版会）
履修上の注意	特になし
予習・復習指導	一講義（1コマ）に対して4.5時間の予習復習をすること。
関連科目	建築計画特論Ⅱ、伝統建築特論Ⅰ・Ⅱ、建築設計特論Ⅰ・Ⅱ、建築デザイン特別演習Ⅰ・Ⅱ
課題に対するフィードバックの方法	講義の中で演習の講評や質疑、応答などを行う
教員の実務経験	
教員の実務経験有無	有
科目ナンバリング	MAT-SL503L

講義名	建築計画特論Ⅱ		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	専門特論科目		
科目分野名			
配当年次	修士課程1年次		
必修選択区分	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 高田 光雄	KYOB I 建築学部

到達目標	建築計画学の基礎概念や現代的課題について理解する。また、それらをふまえて、建築・居住空間の現代的再編・再生を目的とした、建築・住居の計画、設計、整備、運営のあり方や方法に関する基礎的知識と技術を習得する。(建築の設計・計画的側面の理解能力の獲得) さらに、受講生各自の問題意識と学習内容を重ねた研究発表能力の体験的習得を目指す。 この科目は、DPM-1、DPM-2に該当する。
授業概要	住居、居住空間はあらゆる建築の原点である。本講義では、こうした認識を基本として、建築計画学の基礎的概念や現代的課題について概説するとともに、人間居住についての多面的考察をふまえ、様々なレベルでの建築・居住空間の構成原理を示し、併せて、建築・居住空間の現代的再編・再生を目的とした建築・住居の計画、設計、整備、運営などに関わる学理と実践について、担当教員がこれまで行ってきた国内外の研究蓄積を最大限活用して具体的に講述する。これらを踏まえて、受講生は、学習内容に自らの問題意識を重ねた研究発表を行い、受講生相互の意見交換を行う。
授業計画 授業内容	全15回 第1回 講義概要：住まい・まちづくりの実践的研究 第2回 建築計画学・住居計画学とは 第3回 第二次世界大戦後のわが国の住まい 第4回 近代建築の失敗に学ぶ 第5回 空間の機能：住むための機械 第6回 空間の組織化 第7回 中間まとめ 第8回 公共性・社会性と建築計画・住居計画 第9回 地域性・場所性と建築計画・住居計画 第10回 多様性・適合性と建築計画・住居計画 第11回 少子高齢社会と建築計画・住居計画 第12回 地球環境問題と建築計画・住居計画 第13回 受講生発表と講評1 第14回 受講生発表と講評2 第15回 補講および講義まとめ
成績評価	研究発表（30点満点）、期末レポート（70点満点）を100点満点で評価し、その合計が60点以上を合格とする。
教科書	適宜資料を配布する。
参考書 参考資料	講義において紹介する。
履修上の注意	特になし
予習・復習指導	一講義（1コマ）に対して4.5時間の予習復習をすること。
関連科目	建築計画特論Ⅰ、伝統建築特論Ⅰ・Ⅱ、建築設計特論Ⅰ・Ⅱ、建築デザイン特別演習Ⅰ・Ⅱ
課題に対するフィードバックの方法	講義の中で演習の講評や質疑、応答などを行う
教員の実務経験	
教員の実務経験有無	無
科目ナンバリング	MAT-SL504L

講義名	建築設計特論Ⅰ		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	専門特論科目		
科目分野名			
配当年次	修士課程1年次		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 山内 貴博	KYOB I 建築学部

到達目標	建築作品の創造という動機と現実の建築設計との関連性を探る。具体的には、課題解決型の設計プロセスから課題発見・解決提案型の設計プロセスについて解説する。また今日の建築に大きな影響を及ぼした近現代の建築家の思想と作品を通じて、建築設計の理念や手法が社会的資産としてどのように展開しているかを概観する。 この科目は、DPM-1、DPM-2に該当する。
授業概要	変化する社会にしなやかに適合すると共に、高度な専門知識と豊かな教養を発揮し、現実の課題を解決していく実践力を身に付けるための知識・技術・技能を理論的に理解することを到達目標とする。前半は主に建築空間を内部空間だけではなく外部空間から捉えながら、特に歴史的な視点に基づいて講義を展開する。後半は前半の内容を理解したうえで、現代の課題や未来のありようを見据えながら思考を深化させる。講義はスライドを使用して行い、グーグルクラスルームを利用して配布資料や案内など受講生とのやり取りを行う。
授業計画 授業内容	全15回 第1回 講義概要・履修指導 第2回 建築設計（デザイン）について 第3回 テーマ設定 第4回 コンセプト 第5回 ダイアグラム 第6回 建築デザイン 第7回 中間総括 第8回 レポート発表 第9回 近現代建築思想史と著名な建築について概観 第10回 プレモダン・モダニズム 第11回 ハイモダン・レイトモダン 第12回 ポストモダン・ネオモダン 第13回 批評的地域主義 第14回 クリティカル・メイキング 第15回 総括 ※学習への理解、到達状況に応じて、適宜授業内容を調整・変更する場合がある。
成績評価	授業への取り組み（30点満点）期末レポート（70点満点）を100点満点で評価し、その合計が60点以上を合格とする。
教科書	資料配布。
参考書 参考資料	テキスト建築意匠 平尾和洋、末包信吾他著 学芸出版社 環境デザインの歴史展望 稲次敏郎著 山海堂
履修上の注意	現代的問題・課題を図書・書籍、ニュース、新聞等から日々情報を得て、自らの課題として認識、意識していることが重要である。（「認識力」）また、豊かな生活実現、都市環境のあり方などに興味をもち、いろいろな場面、機会などを捉え、豊かな生活実現と都市・街などのあり方、情景などについて日々発見する心掛けが重要である。（「観察力」+「構想力」）
予習・復習指導	一講義（1コマ）に対して4.5時間の予習復習をすること。
関連科目	建築計画特論Ⅰ・Ⅱ、建築設計特論Ⅱ、建築デザイン特別演習Ⅰ・Ⅱ、建築学特別研究Ⅰ・Ⅱ

課題に対するフィードバックの方法	
教員の実務経験	
教員の実務経験有無	有
科目ナンバリング	MAT-SL505L

講義名	建築設計特論Ⅱ		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	専門特論科目		
科目分野名			
配当年次	修士課程1年次		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 人見 将敏	KYOB I 建築学部

到達目標	学生が自ら問題を見出し、自ら解決策を探索し新しい建築を創造して行けるための実務的な建築に関する「知識」と「技術・技能」および「デザイン力」を論理的に理解することを到達目標とする。 この科目は、DPM-1、DPM-2に該当する。
授業概要	建築作品の創造という動機と現実の建築設計との関連性を探る。具体的には、前半は、建築設計の実務の流れに沿って基本計画、基本設計、実施設計等を具体的なプロジェクト・実例をもとに解説する。後半は、いくつかの今日的な建築事例をとりあげ、そこに含まれる課題について考察を行う。（授業内での議論、見学、レポート提出も想定）
授業計画 授業内容	全15回 第 1 回 : ガイダンス 第 2 回 : 建築設計の実務について 第 3 回 : 企画業務・基本計画 第 4 回 : 基本設計・実施設計 第 5 回 : 設計工事監理・工事完成後業務 第 6 回 : 中間総括 第 7 回 : レポート発表 第 8 回 : 今日の課題となっている建築について 第 9 回 : 今日の課題の分析 第 10 回 : グローバル／ローカル 第 11 回 : リノベーション 第 12 回 : サステナブル 第 13 回 : マテリアル 第 14 回 : レポート発表 第 15 回 : 総括 ※学習への理解、到達状況に応じて、適宜授業内容を調整・変更する場合がある。
成績評価	「小レポート＋中間・期末レポート」により成績評価を行う。 授業態度（出席も含め30%）も考慮し、最終成績とする。
教科書	自作プリント
参考書 参考資料	なし
履修上の注意	建築は政治・経済・社会・文化等あらゆる分野と関連しているため、それらの基礎知識を習得し社会の仕組みを理解していること、また、現代的課題を書籍やニュース等から日々情報を得て、自らの課題として認識していることが重要である。さらに、豊かな生活実現、都市環境のあり方に興味をもち、いろいろな場面、機会などを捉え、豊かな生活実現と都市・街のあり方、情景等について日々発見する心掛けが重要である。
予習・復習指導	一講義（1コマ）に対して4時間の予習復習をすること。
関連科目	建築設計特論Ⅰ、建築計画特論Ⅰ・Ⅱ、建築デザイン特別演習Ⅰ・Ⅱ
課題に対するフィードバックの方法	各レポートの結果は、その次の回の講義時間等にフィードバックを行う。
教員の実務経験	10年以上の設計実務経験を有する。
教員の実務経験有無	有り
科目ナンバリング	MAT-SL506L

講義名	建築デザイン特別演習 I		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	6		
科目分類名	専門研究科目		
科目分野名			
配当年次	修士課程1年次		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 山内 貴博	KYOB I 建築学部
教授	安田 光男	KYOB I 建築学部
教授	高田 光雄	KYOB I 建築学部
教授	井上 晋一	KYOB I 建築学部
教授	森重 幸子	KYOB I 建築学部
教授	新海 俊一	KYOB I 建築学部
教授	生川 慶一郎	KYOB I 建築学部
特任教授	大上 直樹	KYOB I 建築学部
特任教授	岸 和郎	KYOB I 建築学部
非常勤講師	種村 俊昭	KYOB I 建築学部

到達目標	機能面、構造面、建築構法、環境デザインなどと連動した、高度な設計内容の構築を目標とする（一級建築士資格を有する教員からのアドバイスを受けながらスタディを進める）。 この科目は、DPM-1、DPM-2、DPM-3、DPM-4に該当する。
授業概要	建築の課題を通して、設計条件分析や発想・概念のまとめ方、機能や空間の構成法、形態化、外部空間、地区、地域、都市空間へと延長した課題解決のためのデザイン力について、より高度な知識とデザイン力を養う。建築設計は基準法で集団規定と単体規定から規定されていることから分かるように、内発する思考だけではなく周辺環境における位置づけも明確にする必要がある。そうした観点も念頭に据えて建築デザインの持つ創作的な視界について思考を深めていく。 本演習は大学院所属の教員が各々課題を提示して選択する方式とする。
授業計画 授業内容	全15回 第1回 ガイダンス、課題説明 第2回 与件把握 第3回 課題分析・関連法規分析 第4回 関連事項研究1 第5回 関連事項研究2 第6回 計画案作成1 第7回 計画案作成2 第8回 スタディ模型作成1 第9回 スタディ模型作成2・中間報告 第10回 詳細検討・全体計画1 第11回 詳細検討・全体計画2 第12回 詳細検討・全体計画3 第13回 図面作成1 第14回 図面作成2 第15回 講評 ※教授内容に対する理解・習得状況に応じて、適宜内容を調整・変更する場合がある。

成績評価	提出作品の内容を、課題設定、課題の解決方法、実験・調査・提案内容、表現（文章・作図）力、プレゼンテーション力の5つの観点から総合的に評価し、100点満点のうち60点以上を合格とする。
教科書	資料配布。
参考書 参考資料	
履修上の注意	
予習・復習指導	一講義（2コマ）に対して3時間の予習復習をすること。 設計課題と類似する実例（複数）を日頃見学、視察し分析すること。
関連科目	建築計画特論Ⅰ・Ⅱ， 建築設計特論Ⅰ・Ⅱ
課題に対するフィードバックの方法	
教員の実務経験	有
教員の実務経験有無	
科目ナンバリング	MAT-SR501S

講義名	建築デザイン特別演習Ⅱ		
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	6		
科目分類名	専門研究科目		
科目分野名			
配当年次	修士課程1年次		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 種村 俊昭	KYOB I 建築学部
教授	安田 光男	KYOB I 建築学部
教授	高田 光雄	KYOB I 建築学部
教授	井上 晋一	KYOB I 建築学部
教授	山内 貴博	KYOB I 建築学部
教授	森重 幸子	KYOB I 建築学部
教授	新海 俊一	KYOB I 建築学部
教授	生川 慶一郎	KYOB I 建築学部
特任教授	小梶 吉隆	KYOB I 建築学部
特任教授	大上 直樹	KYOB I 建築学部
特任教授	岸 和郎	KYOB I 建築学部

到達目標	都市施設を題材とし、サステナブル・デザインの視点から、機能面、構造面、エネルギー面における実現性や合理性の模索、デザインを裏付ける客観データの収集、都市環境との適合性などを現地サーベ이를ベースとしながら、高度な設計内容の構築を目標とする。 この科目は、DPM1～4に該当する。
授業概要	都市・地域の課題を通して、設計条件分析や発想・概念のまとめ方、機能や空間の構成法、形態化、外部空間、地区、地域、都市空間へと延長した課題解決のためのデザイン力について、より高度な知識とデザイン力を養う。建築設計は基準法で集団規定と単体規定から規定されていることから分かるように、内発する思考だけではなく周辺環境における位置づけも明確にする必要がある。そうした観点も念頭に据えて建築デザインの持つ創作的な視界について思考を深めていく。 本演習は大学所属の教員が各々課題を提示して選択する方式とする。
授業計画 授業内容	第1回: ガイダンス 第2回: スタディ(与件把握) 第3回: スタディ(与件把握) 第4回: スタディ(与件把握) 第5回: スタディ(与件把握) 第6回: スタディ(デザイン) 第7回: スタディ(デザイン) 第8回: スタディ(デザイン) 第9回: スタディ(デザイン) 第10回: スタディ(詳細検討・全体計画) 第11回: スタディ(詳細検討・全体計画) 第12回: スタディ(詳細検討・全体計画) 第13回: スタディ(プレゼンテーション) 第14回: スタディ(プレゼンテーション) 第15回: 最終審査(講評会)
成績評価	提出作品の内容から総合評価を行う。
教科書	なし

参考書 参考資料	「都市計画とまちづくりがわかる本」伊藤雅春・小林郁雄・澤田雅浩・野澤千絵・真野洋介・山本俊哉 編著 彰国社 演習時間の中で配布
履修上の注意	建築は政治・経済・社会・思想・文化などあらゆる分野と関連しているため、それらの基礎知識を習得し、社会の仕組みを理解していること、現代的問題・課題を図書・書籍、ニュース、新聞等から日々情報を得て、自らの課題として認識、意識していることが重要である。また、豊かな生活実現、都市環境のあり方などに興味をもち、色々な場面、機会などを捉え、豊かな生活実現と都市・街などのあり方、情景（風景）などについて日々発見する心掛けが重要である。（観察力+構想力）
予習・復習指導	一講義(2コマ)に対して3時間の予習復習をすること。 (特記事項) 設計課題と類似する実例(複数)を日頃見学、視察し分析すること。
関連科目	建築企画論、建築計画特論Ⅰ・Ⅱ、建築設計特論Ⅰ・Ⅱ、建築学特別研究Ⅰ・Ⅱ
課題に対するフィードバックの方法	実習・演習課題ごとに講評・質疑応答等を行う。
教員の実務経験	32年（アトリエ事務所6年、組織事務所22年、自営事務所4年）間において各種建築の計画、設計、監理、各種コンペ、プロポーザル業務、都市・地域計画等の実務経験を積む。 その経験を活かし、住宅から都市レベルの計画・設計・プレゼンテーションの指導を行う。
教員の実務経験有無	有
科目ナンバリング	MAT-SR502S

講義名	建築企画論		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	専門研究科目		
科目分野名			
配当年次	修士課程1年次		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 生川 慶一郎	KYOB I 建築学部
教授	高田 光雄	KYOB I 建築学部

到達目標	「建築企画」に伴う事業主体のあり方に始まり、継続的な協議体制の確立や多様な財源の確保、事業・取り組みの優先順位やその決定プロセスなど、都市が抱えている課題の解決に資する知見について学習する。 この科目は、DPM-2、DPM-4に該当する。
授業概要	これからの「建築」は、社会の中で多くの人の多様なニーズに応えながらも、安全・安心、健康、利便、快適など、生活との関わりの中で社会システムとしていかに機能するかが問われている。社会システムは建築だけで構成されているわけではないが、これまでの「建築」の果たした文化と社会への影響、これからの社会動向を踏まえた人間と環境のあり方の提案など、「建築」に期待される社会との関わりについて多角的に理解し、その本質を追求する能力を養う。
授業計画 授業内容	全15回 第1回 講義概要・履修指導 第2回 建築企画の基本問題 第3回 建築企画のプロセス 第4回 建築企画の現代的課題 第5回 建築企画の実践①（安全と文化のアンフェーベン） 第6回 フィールドワーク・演習① 第7回 建築企画の実践②（建築の用途変更と再生） 第8回 フィールドワーク・演習② 第9回 建築企画の実践③（地域まちづくり） 第10回 フィールドワーク・演習③ 第11回 建築企画の実践④（建物の長寿命化） 第12回 フィールドワーク・演習④ 第13回 建築企画の実践⑤（環境への配慮） 第14回 フィールドワーク・演習⑤ 第15回 まとめと講評
成績評価	フィールドワークおよび演習の成果物（30点）、定期試験（レポート形式）（70点）の合計で評価し、60点以上を合格とする。
教科書	適宜資料を配布する。
参考書 参考資料	日本建築学会編：建築企画論-建築のソフトテクノロジー-技報堂出版、1990.10 日本建築学会編：マネジメント時代の建築企画、技報堂出版、2004.11 日本建築学会編：建築・まちづくりの夢をカタチにする力 建築企画事例から考える環境のデザイン、彰国社、2008.9
履修上の注意	日常的に建築企画全般に関心を持ち、多角的な視点で建築やまちづくりを考究する姿勢が望まれる。また、フィールドワークや研究発表には必ず出席すること。
予習・復習指導	1コマに対し、4.5時間の事前学習をすること。受講にあたっては、事前に通知・配布した関係資料については予習を、授業当日に配布資料については、適宜復習すること。
関連科目	

課題に対するフィードバックの方法	
教員の実務経験	
教員の実務経験有無	
科目ナンバリング	MAT-SR507L

講義名	西洋都市建築デザイン論		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	専門研究科目		
科目分野名			
配当年次	修士課程1年次		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 白鳥 洋子	KYOB I 建築学部

到達目標	ヨーロッパの現代建築、近代建築の知識を深め、古代から続く建築の集積と都市の積層について理解する。異なる時代の建築に新鮮さを見出し、都市の歴史的な文脈と現在の諸課題を踏まえながら、都市と建築の関係性をデザインの観点から論じる力を身につける。 この科目は、DP2-1、DP2-3に相当する。
授業概要	ヨーロッパを中心に様々な時代の都市と建築を例に取り、両者の関係性について論考する。世界の素晴らしい建築物は美しい都市とともに存在し、両者は互いに高め合う関係にある。古代では都市計画と建築、中世では有機的な都市景観と建築について論じ、都市の変遷と建築の関係性を捉える。さらに、歴史的都市における近代現代建築のあり方や近代の都市計画と建築について論考を深める。異なる時代の建築と都市について横断的に認識を深め、伝統建築と現代建築の共存・融合のデザイン、異なる時代の建築による都市のデザインについて論じる。
授業計画 授業内容	全15回 第1回 ガイダンス 歴史的都市と現代建築 (1) 第2回 歴史的都市と現代建築 (2) 第3回 フランス近代建築と都市デザイン 第4回 フランスの近代建築の源流と展開 第5回 テーマ発表 第6回 パリの都市の変遷と建築 第7回 小都市の建築群 第8回 古代の都市と建築 第9回 1930年代の建築と都市デザイン 第10回 中間発表 第11回 伝統建築と現代建築の共存・融合 第12回 建築転用の源流 第13回 都市交通と建築 第14回 21世紀の建築 第15回 最終発表会 * 講義内容、順番は進行状況に応じて調整、変更を行うことがある。
成績評価	研究発表 (40%)、提出物 (40%)、受講姿勢 (20%) により評価を行う。
教科書	適宜、資料を提示する。
参考書 参考資料	適宜、講義で紹介する。
履修上の注意	現在においても過去の時代においても都市は建築の集積であり、両者は人々に営みやその文化を内包する器である。歴史的都市における各時代の建築のデザインについて考えを深め、伝統と創造について考える契機にしてほしい。
予習・復習指導	講義 (1コマ) に対して2時間の事前学習、2.5時間の復習を行うこと。 事前学習：次回講義の該当テーマについて参考文献を読み、概要を把握しておくこと。 復習：講義を振り返り、参考資料を参照しながら、ノートを整理すること。
関連科目	建築、都市、デザイン、芸術、哲学に関する科目。
課題に対するフィードバックの方法	授業内の発表や提出物について講評を行う。 期末レポートについて講評を行う。
科目ナンバリング	MAT-SR508L

講義名	建築学特別研究 I		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	6		
科目分類名	専門研究科目		
科目分野名			
配当年次	修士課程2年次		
必修選択区分	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 高田 光雄	K Y O B I 建築学部
教授	安田 光男	K Y O B I 建築学部
教授	井上 晋一	K Y O B I 建築学部
教授	山内 貴博	K Y O B I 建築学部
教授	森重 幸子	K Y O B I 建築学部
教授	新海 俊一	K Y O B I 建築学部
教授	生川 慶一郎	K Y O B I 建築学部
教授	宮内 智久	K Y O B I 建築学部
准教授	人見 将敏	K Y O B I 建築学部
准教授	根来 宏典	K Y O B I 建築学部
准教授	白鳥 洋子	K Y O B I 建築学部
講師	新谷 謙一郎	K Y O B I 建築学部
講師	砂川 晴彦	K Y O B I 建築学部
講師	中西 大輔	K Y O B I 建築学部
特任教授	小堀 吉隆	K Y O B I 建築学部
特任教授	大上 直樹	K Y O B I 建築学部
特任教授	岸 和郎	K Y O B I 建築学部
非常勤講師	種村 俊昭	K Y O B I 建築学部
准教授	岡 達也	K Y O B I 芸術学部
教授	井上 年和	K Y O B I 建築学部
特任准教授	杉本 直子	K Y O B I 建築学部

到達目標	取り組むべき研究課題を見出し、仮説の実証に必要な調査・分析を行えること。また、推敲を重ね論文もしくは制作物を構築し、その成果をプレゼンテーションできること。 この科目は、DPM-1～4に該当する。
授業概要	各自の研究テーマに沿って、より高度なレベルで、修士研究（修士論文または修士設計）を行い、それに対して担当指導教員及び副指導教員が適宜指導を行う。各自の進捗を把握するために中間発表会を適宜行い、教員および学生間で意見交換や助言を受けることで、テーマや表現の発展ができるように修士制作や論文の完成を目指す。なお、修士研究の合否判定は、あらかじめ定められた指導教員以外の教員が主査を務め、副査2名との協議により行われる。なお、学位授与の条件となる修士研究の評価の基準等は別に定められ、「履修の手引き」に詳しく表記されている。

授業計画 授業内容	研究課題・研究計画・研究方法の策定指導、調査・実験等の内容報告と討議、修士研究作成の指導、口頭発表練習等を行う。 全15回 第1回 ガイダンス 研究内容の説明・資料紹介・日程の打合せ 第2回 研究課題の企画1 既出研究資料・学会関係資料の収集と系統的分類 第3回 研究課題の企画2 資料の読み合わせと評価：資料的価値の吟味、内容の妥当性・今後の問題点・拡張の可能性に関する検討 第4回 研究課題の企画3 研究課題に関する主要資料の選択、追加資料の必要性・新たな課題の可能性に関する検討 第5回 研究課題の企画4 研究課題の検討と策定 第6回 研究課題の立案1 研究計画の検討と策定 第7回 研究課題の立案2 研究方法の検討と策定 第8回 研究課題の立案3 調査・実験等の実施 第9回 研究課題の立案4 調査・実験等の実施 第10回 中間報告 中間報告と討議 第11回 研究課題の展開1 調査・実験等の結果に対する収集整理 第12回 研究課題の展開2 調査・実験等の結果に対する収集整理 第13回 研究課題の展開3 追加の調査・実験等の検討 第14回 研究課題の展開4 追加の調査・実験等の実施 第15回 最終報告 最終結果の報告と検討
成績評価	建築学特別研究Ⅰの中間・最終成果品等の内容を、課題設定、課題の解決方法、実験・調査・提案内容、表現（文章・作図）力、プレゼンテーション力の5つの観点から総合的に評価し、100点満点のうち60点以上を合格とする。なお、学位授与の条件となる修士研究の評価の基準等は別に定められ、「履修の手引き」に詳しく表記されている。
教科書	各指導教員の方針や研究段階によって異なる。特に指定する場合や適宜問題に応じて論文や資料を紹介し、読み合わせることもある。
参考書 参考資料	特に定めないが、自主的な要望に沿って参考資料を紹介する。
履修上の注意	設計実習・調査の成果を踏まえ、指導教員と密度ある議論を重ねながら、学生が主体的に修士研究のまとめを行うこと。
予習・復習指導	ゼミ指導等に積極的に参加し、幅広い知識と技能の習得に努めること。
関連科目	建築学特別研究Ⅱ
課題に対するフィードバックの方法	毎回のゼミ指導において、進捗状況等に関するコメントや指導を行う。また、中間報告および最終報告における発表に対して講評を行う。
教員の実務経験	
教員の実務経験有無	有
科目ナンバリング	MAT-SR605P

講義名	建築学特別研究Ⅱ		
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	6		
科目分類名	専門研究科目		
科目分野名			
配当年次	修士課程2年次		
必修選択区分	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 高田 光雄	K Y O B I 建築学部
教授	安田 光男	K Y O B I 建築学部
教授	井上 晋一	K Y O B I 建築学部
教授	山内 貴博	K Y O B I 建築学部
教授	森重 幸子	K Y O B I 建築学部
教授	新海 俊一	K Y O B I 建築学部
教授	生川 慶一郎	K Y O B I 建築学部
教授	宮内 智久	K Y O B I 建築学部
准教授	人見 将敏	K Y O B I 建築学部
准教授	根来 宏典	K Y O B I 建築学部
准教授	白鳥 洋子	K Y O B I 建築学部
講師	新谷 謙一郎	K Y O B I 建築学部
講師	砂川 晴彦	K Y O B I 建築学部
講師	中西 大輔	K Y O B I 建築学部
特任教授	小堀 吉隆	K Y O B I 建築学部
特任教授	大上 直樹	K Y O B I 建築学部
特任教授	岸 和郎	K Y O B I 建築学部
非常勤講師	種村 俊昭	K Y O B I 建築学部
准教授	岡 達也	K Y O B I 芸術学部
教授	井上 年和	K Y O B I 建築学部
特任准教授	杉本 直子	K Y O B I 建築学部

到達目標	建築学特別研究Ⅰの成果を更に発展させ、豊かな内容を盛り込んだ納得の修士研究としてまとめ上げること。 この科目は、DPM-1～4に該当する。
授業概要	各自の研究テーマに沿って、より高度なレベルで、修士研究（修士論文または修士設計）を行い、それに対して担当指導教員及び副指導教員が適宜指導を行う。各自の進捗を把握するために中間発表会を適宜行い、教員および学生間で意見交換や助言を受けることで、テーマや表現の発展ができるように修士制作や論文の完成を目指す。なお、修士研究の合否判定は、あらかじめ定められた指導教員以外の教員が主査を務め、副査2名との協議により行われる。なお、学位授与の条件となる修士研究の評価の基準等は別に定められ、「履修の手引き」に詳しく表記されている。

授業計画 授業内容	研究課題・研究計画・研究方法の策定指導、調査・実験等の内容報告と討議、修士研究作成の指導、口頭発表練習等を行う。 全第15回 第1回 ガイダンス 研究内容の説明・資料紹介・日程の打合せ 第2回 研究課題の継続1 レビューを踏まえた研究課題の検討と確認 第3回 研究課題の継続2 作業の実施と結果の検討 第4回 研究課題の継続3 作業の実施と結果の検討 第5回 研究課題の継続4 作業の実施と結果の検討 第6回 研究課題の発展1 研究課題を支える調査・実験等を説明する丁寧な記述 第7回 研究課題の発展2 研究課題を支える調査・実験等を説明する丁寧な記述 第8回 研究課題の発展3 調査・実験等から得られたデータの分かりやすい表示 第9回 研究課題の発展4 調査・実験等から得られたデータの分かりやすい表示 第10回 中間報告 中間報告と討議 第11回 研究課題のまとめ1 研究成果物の構成について討議 第12回 研究課題のまとめ2 研究成果物の内容について討議 第13回 研究課題のまとめ3 最終成果品の発表、討議 第14回 研究課題のまとめ4 最終成果品の修正作業、展示 第15回 最終報告 講評会
成績評価	建築学特別研究Ⅱの中間・最終成果品等の内容を、課題設定、課題の解決方法、実験・調査・提案内容、表現（文章・作図）力、プレゼンテーション力の5つの観点から総合的に評価し、100点満点のうち60点以上を合格とする。なお、学位授与の条件となる修士研究の評価の基準等は別に定められ、「履修の手引き」に詳しく表記されている。
教科書	各指導教員の方針や研究段階によって異なる。特に指定する場合や適宜問題に応じて論文や資料を紹介し、読み合わせることもある。
参考書 参考資料	特に定めないが、自主的な要望に沿って参考資料を紹介する。
履修上の注意	設計実習・調査の成果を踏まえ、指導教員と密度ある議論を重ねながら、学生が主体的に修士研究のまとめを行うこと。
予習・復習指導	特になし （特記事項） ゼミ指導等に積極的に参加し、幅広い知識と技能の習得に努めること。
関連科目	建築学特別研究Ⅰ
課題に対するフィードバックの方法	
教員の実務経験	
教員の実務経験有無	
科目ナンバリング	MAT-SR606P